

# 体育科 学習指導案

令和元年6月10日（月） 第4校時

6年 組（男子11名、女子13名） 体育館  
指導者

## 1. 単元名 「バスケットボール」

## 2. 単元について

### (1) 単元の目標

- ・簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを持たない時の動きによって攻防をすることができるようにする。(知識及び技能)
- ・ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力・判断力・表現力)
- ・運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。  
(学びに向かう力・人間性等)

### (2) 指導計画（全8時間予定、本時は6時間目）

過程 (時間)	主な学習活動	単元構想の意図、指導方針等
つかむ (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・学習の進め方や基本的なルールの確認、グループ決め、役割決め</li> <li>・試しのゲーム</li> <li>・単元の課題をつかむ</li> </ul>	<p>ア. 子どもの実態 体を動かすことを好む児童が多いが、チームで協力する活動は、話し合い活動が活性化せず、一部の児童に任せてしまったり、意志の疎通が上手く図れずチーム力の向上に結びつかなかったりすることが多い。学習カードやお互いのプレーを見合うことで自分達のチームの特徴に気付き、自分達にあった作戦を立て、実践しようとする活動を通して、技能の向上及び作戦の重要性や作戦が成功した時の達成感を味わわせたいと考える。</p>
追究する (4)  本時 6/8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に必要な知識や基本的な技能を習得する。</li> <li>・習得した知識や基本的な技能を活用して課題を解決する。</li> </ul> <p>(ドリルゲーム+タスクゲーム+メインゲーム)</p>	<p>イ. 学習過程の流れ及び指導方針</p> <p>〈つかむ〉過程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試しのゲームを行い、チームの課題を設定することができるようにする。</li> </ul> <p>〈追求する〉過程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリル的な活動を通して基本的な技能を高める。</li> <li>・仲間と連携した動きを高めるためにチーム内でタスクゲームを行う。</li> <li>・兄弟チームを設定し、協力して練習を行ったり、動きについてのアドバイスをしあったり、試合の応援したりするなど協力して学ばせるようにする。</li> <li>・学習カードを使用し、チーム内で話し合い、チームの課題にあった練習が組める手立てとする。</li> <li>・作戦を成功させて勝っているチームの作戦や練習方法を紹介する場を設けることで、よりよい作戦や練習方法を全体に広げることができるようにする。</li> </ul>
まとめる (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームに合った作戦を生かしてゲームを楽しむ。</li> </ul> <p>(タスクゲーム+メインゲーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の成果を確認する。</li> </ul>	<p>〈まとめる〉過程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元で学習した技能や作戦のポイントを意見交流を通して学級全体で共有する。</li> </ul>

### 3. 本時の学習

- (1) 本時の目標 チームの特徴に合わせた作戦を考え、ゲームを行うことができる。  
 (2) 準備 バasketボール、ゼッケン、タイマー、得点板、ホイッスル、学習カード  
 (3) 展開

過程 (時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つ か む (5分)	①集合・整列 ・本時の学習内容を知る。  めあて： チームに合った作戦を考えゲームをしよう	・チームごとに準備運動をさせることでチームワークを意識させたり、児童が主体的に活動できるようにさせたりする。
追 究 す る (35分)	②ドリルゲーム (5分) 三角パス 連続シュートゲーム	・チーム対抗で記録を競い合わせるとともに、自分達のチームの技能向上につながっているかの確認の場とする。
	③タスクゲーム (8分) ハーフコート3対2 ランニングシュートなど チームの課題に応じた練習をする。	・タスクゲームを通して、ボールを保持する動きやボールを持たない時の動きについて確認し、動き方を身につけられるようにする。 ・チームの課題に応じたタスクゲームを行わせる。
	④チーム作戦の確認 (2分) ⑤メインゲーム1 (3分) オールコート3対3 (兄チーム)  ⑥作戦タイム (5分) メインゲーム1の振り返りとメインゲーム2の確認 ⑦メインゲーム2 (3分) オールコート3対3 (弟チーム)	・チームの作戦を確認する時間を確保する。 ・コートはオールコートで、人数は3対3とし、児童がボールに触れやすくゲームに参加しやすいようにする。 ・試合に出ていない児童には、兄弟チームの動きや課題をよく見させるようにする。 ・失敗したところを責めるのではなく、チームの課題として協力や教え合い、励まし合いなどでチーム力が高められることを助言する。 ・ルールやマナーを守っているかどうか観察し、必要に応じて助言する。
ま と め (5分)	⑦学習を振り返り、学習カードに記入する	・記録カードも参考にして自分達のゲームを振り返る。 ・本時のめあてが達成できたか確認する。

#### 【評価項目】

○おおむね満足

チームの特徴が分かり、話し合いに参加し、ゲームに生かそうとしている。

◎十分満足

チームの特徴が分かり、話し合いで進んで意見を述べられ、ゲームに生かそうとしている。

(観点・評価方法)  (観察・学習カード)